

令和7年度 伊那市立伊那北小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価 (a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
<p>かしこく なかよく たくましく</p> <p><教育理念> 子どもたちの未来のための学びがある学校づくり</p> <p><めざす学校像> 「すべての子に学びの場がある学校」 「伊那北の自然・地域とともにある学校」</p>	<p>○継続的な体験活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流・発信の場づくり(学校行事・児童会活動・学級活動等の工夫) ・校外の人とかかわる学習活動の重視(社会科、総合・生活科、里山学習を通して) ・成長をふりかえる時間の重視(授業のまとめ、キャリアパスポートの活用)
	今年度の重点目標
	<p>(1)手を取りあいて学びつつ「主体的・対話的な学び」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み書き・計算力の定着 ・自分の目で見えて調べる学習 ・友との学び合いがある授業 ・自己調整力を育てる学習 <p>(2)広き世界にまじわりて「人間関係力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・凡事徹底、率先垂範 ・ちがいを認め合える学級づくり ・異年齢交流の推進 ・国際理解教育の充実 <p>(3)清き自然にめぐまれて「体験を通した心身の健康」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学習の充実 ・健康的な生活習慣の確立 ・体力、運動能力の向上

総合評価		
成果と課題	評価	改善策・向上策
<p>○児童アンケートでは、多くの項目で子どもたちの肯定的な思いが伸びていることが見られた。「あいさつをしている」と答える児童の割合は、過去2年間と比べて高くなっている。児童の記述には、「あいさつを笑顔で返してくれる人がたくさんいる」といった声があった。また、本校のよさとして「学年関係なく仲が良い」と答える児童が多く見られた。こうした子どもたちの願いを大切にし、学年の枠をこえて多くの児童が関わり合える学校を目指していきたい。</p> <p>○保護者アンケートでは、「学校に楽しく通っている」の項目が過去2年間と比べて低くなった。児童それぞれに楽しさを感じる場面がある一方で、不安に思うことも異なる。人ひとりの思いにより一層心を寄せ、学校が安心して生活できる場所になるよう取り組んでいきたい。家庭にはおたよりなどを通じて学年の活動の様子をお伝えし、学校生活でどんなことを感じたか、家庭で話題にさせていただけるよう働きかけたい。</p>		
<p>(1)手を取りあいて学びつつ「主体的・対話的な学び」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「授業は分かりやすいですか」89.2%(7) ○「授業中、先生や友だちは、あなたの意見を聞いてくれますか」95.3%(7) △「授業中、分からないことを聞いたり、自分から意見を言ったりしますか」65.0%(5) 	A b	<p>○MIMやみづみづ式漢字学習法の導入、また、AIドリルの活用の継続。</p> <p>△AIドリルの活用については、学校全体で取り組める工夫をしていきたい。</p> <p>△間違えることへの不安を感じている児童が安心して学べる授業のあり方を研究する。</p>
<p>(2)広き世界にまじわりて「人間関係力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学校はたのしいですか」85.5%(5) ○「家庭や学校、近所の人にあいさつをしていますか」93.0%(7) ○「先生や友だちは、あなたのよいところや、がんばっているところを認めていますか」92.5%(7) 	A a	<p>○「学校は楽しい」と感じている児童の割合は若干低下。授業の楽しさに加えて、児童会活動や地域とのかかわりなどを更に充実させ、楽しいと感じる機会を増やしたい。</p> <p>○あいさつをする児童の割合が上昇。地域とのつながりを継続したい。</p> <p>○仲間の努力や良さを認め合える学校・学級づくりを今後も大切にしたい。</p>
<p>(3)清き自然にめぐまれて「体験を通した心身の健康」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「里山や地域での活動、健康な体づくり、運動などを通して、心も体もたくましく元気になるように努力をしています」89.3%(5) ○「給食はおいしく感謝して食べていますか」94.9%(7) 	A a	<p>○学年ごとに里山での遊びや体験学習が位置付けられており、地域の方々との交流を通して、清き自然の中で子どもたちが学ぶことができた。</p> <p>○給食について肯定的にとらえる児童が増えた。引き続き、食を通して児童の心身の健康を保てるようにしたい。</p>

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	○思考をめぐらせたり、体験を通して学び教育活動の展開をする。	(1)子どもの今までの経験を生かして考えたり、体験的な活動を大切にしたりする授業の工夫ができたか。
		○客観的な学力・課題の把握と手立てを行う。	(2)客観的な学力の把握と課題解決に向けての取り組みができたか。
	学習指導	○授業のねらいを明確にした学習活動やめりはりと学び合いのある授業展開にする。	(1)「ねらい・めりはり・見とどけ」を大切にしたり、児童が主体的に活動し、対話のある授業への改善ができたか。
		○自己表現力の育成と、それを受け入れることができる人間関係づくりをしていく。	(2)自分の考えを伝えたり、友達の見解を聞いたりしながら、考えを深められるような人間関係づくりができたか。
	生徒指導	○チームワークで取り組む生徒指導を充実させる。	(1)生徒指導上の問題を学年主任、生徒指導主任、特別支援コーディネーター、教頭のもとに情報収集し、全校職員のチームワークで指導にあたることができたか。
			(2)特に支援を要する児童に対して、フェイスシートを活かして全職員で連携して指導にあたることができたか。
学校運営	安全	○PTA、見守り隊の協力による登下校の見守りを行う。	(1)PTA 校外指導部、見守り隊の活動を通して、地域の方に登下校の安全・安心を見守っていただくことができたか。
		○安全点検による修繕箇所を割り出しと早急な修繕措置を行う。	(2)毎月初めの職員による安全点検を通して、校内の危険箇所、修繕箇所を割り出し、早急に修繕することができたか。
	地域との	○学校応援団、里山学習を通して地域社会と連携を図り、地域に開かれた学校づくりをする。	(1)学校応援団や里山学習を通して、地域との連携を図り、校外に開かれた学校にする。また、そのことを学校通信やホームページ等により発信し、情報の共有が図れたか。

成果と課題	評価	改善策・向上策
<p>○「継続的な体験活動の充実」を重点目標に掲げ、各学年の行事や教育活動において、目標を意識して活動に取り組むことができた。</p> <p>△学校職員と地域から招く指導者との打ち合わせを早い段階から重ね、実際の児童の活動につなげていきたい。</p>	A b	<p>・総合的な学習の時間や生活科における探究的な学びにつながる活動にしていきたい。</p> <p>・年度当初に地域の方からお話を聞く時間を設けるなどして、新任の職員も見通しをもって体験活動を仕組んでいけるようにしたい。</p>
<p>○全学級で年2回(1年生は1回)のQ-U検査を実施。講師に結果の分析を依頼し、各学級において支援が必要な児童について職員で共通理解を図った。</p> <p>○低学年では、MIM-PMのスクリーニングにより、児童の読み書き等の定着度を把握し、支援が必要な児童の個に応じた学びの補充を行った。</p>	A a	<p>・分析結果を事後の授業改善に生かし、児童の学びにどのような変化がみられたか、共有できる時間を設けていきたい。</p> <p>・他学年、他学級の結果を互いに見合い、担任が自学級の改善に向けた計画を立てる機会を定期的に設けていきたい。</p>
<p>○「めあて」「まとめ」「振り返り」のシートを用いて、板書を構造的に示した。</p> <p>○振り返りを重視し、授業の終わりに観点に沿った振り返りを記述することができる児童が増えてきている。</p> <p>○MIM やみづみづ式漢字学習法が児童の学習理解の基礎になり、自己肯定感の高まりにもつながってきていると考えられる。</p>	A a	<p>・授業のねらいが達成できたかどうか、児童の振り返りからも評価できるようにする。</p> <p>・振り返りの内容を工夫し、次の学習につながる願いや見通しを導き出せるようにしていきたい。</p> <p>・ICT も取り入れた板書のあり方や児童の考えの共有等について今後も研究を深めていきたい。</p>
<p>○スクールタクトを活用することで、学習問題に対する友達のことを同時に確認することができ、それを基に自分の考えを再構築する児童の姿が見られる。</p> <p>△人前で自分の考えを発表することに自信が持てない児童が例年同様多い。</p>	A b	<p>・児童が間違いを恐れず、安心して学べる環境づくりに努める。</p> <p>・児童個々の伸びを丁寧に取り上げ、認めていくことで、自己肯定感が高まり、人前で表現しようとする意欲が高まるよう指導していく。</p>
<p>○生活指導委員会を中心に報告・連絡・相談が適切に行うことができ、生徒指導上の多様な案件に対応してきた。</p> <p>○各学級の心を寄せたい児童について全職員で共有し、多くの職員が声をかけたり、情報を集めたりすることができた。</p> <p>○全職員が必要な時にフェイスシートを見返して困り感を把握できるようにし、有効な支援に生かすことができた。</p>	A a b	<p>・チームで対応することを基本とし、学級担任が一人で悩むことのないようにしていきたい。</p> <p>・保護者と学校が児童に対して同一歩調で支援していくことができるように、支援会議の場を大切にいく。</p> <p>・フェイスシートは必要な時にすぐに確認できるようにする。担任は記録の追加や確認を行うことで、児童の変化をいち早く察知できるようにする。</p>
<p>○毎日の下校時刻を月ごとにPTA、見守り隊に配付し、登下校の安全確保に協力していただいている。</p> <p>△降雪時の朝の対応について、除雪分担などを工夫する必要があるという意見が出された。</p>	A b	<p>・有事の集団下校が滞りなくできるよう訓練を重ねていく。</p> <p>・登校・下校時刻を見守り隊の方に確実にお伝えし、安全安心な登下校の見守りに協力いただく。</p>
<p>△安全点検を毎月初めに実施。修繕箇所を教頭と事務職員が把握し、校務技師とともに修繕にあたった。学校職員の手では早急に対応できない事案もあった。</p>	A b	<p>・教頭や校務技師に対応できない箇所については、市教委と相談のうえ、計画的に修繕するようにする。不用意な破損の減少に努める。</p>
<p>○「上牧里山づくり」との協働による里山学習プログラムを継続した。また、学校応援団の協力を得て、各学年の授業に地域の力をお借りする機会が増えてきた。</p>	A a	<p>・学校応援団の方々との連携を今後も進め、地域コーディネーターに協力いただきながら、授業や活動の補助などを地域に依頼していく。</p> <p>・コミュニティルームの地域開放を継続し、地域の方々にとって敷居の低い学校となれるよう努める。</p>

	連携	○ 保護者との連携を密にすることで、学校との信頼関係を構築していく。	(2) 家庭訪問、保護者懇談会、授業参観や懇談会を充実させたり、児童の体や心を考える講演会を実施したりして、家庭と連携して子どもの指導にあてられたか。	○ 欠席が続く場合などは担任が電話連絡や家庭訪問をして、家庭と情報を共有しつつ児童の様子をうかがうようにした。 ○ 学校保健委員会を参観日に合わせて実施した。多くの保護者に参加していただくことができ、歯の健康についても考えていただいた。	A a	・ 経済的・環境的な支援の必要がある家庭には、市教委や社会福祉協議会、医療機関等の力も借りながら、チームで支援していく。情報共有を細やかに進めていく。
	研修	○ 児童の成長を願い、PTA と連携して学校教育を進め、家庭教育を支援する。	(1) PTA と課題を共有し、PTA 講演会や校内外の研修などに積極的に参加できたか。	○ PTA 主催で「情報モラル講演会」を実施した。今年度は参観日に実施し、親子一緒に話を聞いて、ネットとの正しい付き合い方を家庭全体で考えるきっかけになった。	A a	・ 講演会を行う際には、事前に学校の教育課題について保護者と問題意識を共有するなどして、一緒に課題解決に向けて考える機会を設けたい。
		○ 教職員の自己研鑽の場を設ける。	(2) 授業を互いに参観し合うことを通して研修を深め、自己課題を持つことができたか。	○ 学校全体でふりかえりを重視した授業を進め、公開授業等を通して全学級で目指す方向や職員個々の課題について考え合うことができた。 △ 更に授業を見合い、職員同士で学び合う機会を増やしていきたい。	A b	・ 気軽に授業を見合うことができる環境を整え、互いに気が付いたことを伝え合っていけるよう、職員集団の学び合おうとする意識を更に高めていきたい。